

平成30年3月31日

篠山市議会議長 様

会派名 高志会
代表者名 木戸貞一
又は会派無所属議員の氏名



政務活動報告書

この度の政務活動を下記のとおり報告します。

記

1. 活動の種類: 視察調査 ・ 研修 ・ 広報広聴活動
その他 ()
2. 活動期間: 平成30年3月12日(月)
3. 場所: 熊本県玉名市
4. 活動者: 木戸貞一・恒田正美 2名
5. 活動の概要: 別紙
6. 考察: 別紙
7. 活動に要した費用:

費目	詳細	金額	備考
調査旅費	電車賃	70,320	JR 篠山口～JR 熊本、JR 新玉名駅～JR 篠山口
〃	レンタカーリース料	7,500	
〃	バス賃	1,160	二階町～JR 篠山口
〃	宿泊費	13,200	2名分
〃	土産代	3,600	玉名市、ナルセ機材

「高齢ドライバー、身障者の運転再開の問題解決に貢献する ワンペダル」に係る視察報告書

日 程：平成30年3月12日（月）

場 所：熊本県玉名市役所及びナルセ機材有限株式会社

出席者：鳴瀬益幸（ナルセ機材代表取締役）、荒田晃慎（ナルセ機材ワンペダル担当）、
西村氏（玉名市総務部防災安全課）、恒田正美、木戸貞一

■視察の目的

近年、高齢者が増える中、自動車運転に関して加齢とともに状況判断も衰えてくるといった理由で、高齢者の免許返納などが本市でも取り組まれている。

しかし、篠山のように公共交通が十分でない地方では、住民の移動手段として自動車はなくてはならないものであり簡単に運転をやめるということにならないのが現実である。高齢者が今後益々増えていく中、できるだけ安全に運転するにはどうしたらいいか。こういうことを考えているとき、ニュースでワンペダルというフレーズが目についた。

自動車事故については、高齢者がとっさの時にブレーキとアクセルを踏み間違えて惨事が起こるというニュースもよく流されるが、ワンペダルはこれらペダルの踏み間違いを解決してくれる補助機材ということで注目されているということであった。そして、熊本県と岡山県にある2つの自治体ではワンペダルに補助金制度を創設しているということを知り、ワンペダルの効果と実績調査を目的に視察を行うことにした。

■視察の内容

- ・ワンペダルを製造販売しているナルセ機材を訪れ説明を聞き、実際に試乗した。
- ・その後、玉名市役所でワンペダルの普及状況や補助金制度創設に至る経緯などの聞き取りを行った。

（ワンペダルについて）

- ・ワンペダルは1991年から販売開始されているらしく、現在まで650台以上の売り上げがある。うち100台が玉名市で販売。
- ・特に近年、テレビ、雑誌で取り上げられ、ここ2、3年で約300台の販売実績がある。
- ・現在は予約がいっぱいで納期は半年後になる。

- ・こういった状況を受け、生産能力向上を目指しており、現在は年間100台の生産能力であるが、今後改善を図っていく予定。
- ・費用は20万円程度で、玉名市で5万円の補助、岡山県美咲町で15万円の補助制度が創設されている。
- ・鳴瀬社長自身がペダルの踏み間違いをしたことがあるということで、これは危ないと思い開発した。
- ・最近、子が親のために取り付けたという注文も多い。
- ・警察や自治体から呼ばれることも多く、来月は阪急ドライビングスクールに呼ばれている。
- ・岡山県美咲町の補助制度は、昨年9月に試乗会を行い、10月議会で条例が可決された。
- ・ワンペダルはほとんどの車種に対応しているが、軽トラは設置不可である。

■考察

ワンペダルを装着した車を試乗した感想は、慣れるまで違和感があるが数十分練習すればすぐに慣れるので運転上の問題はないと感じた。

ナルセ機材の話ではアクセルは踏み込むのではなく足を開く感覚で操作するため、長距離運転は特に楽ということであった。

ナルセ機材の荒田氏は、病気で右足を切断したためワンペダルと出会い、その後ナルセ機材のワンペダル担当となったとのことで、片足が不自由といった身体障害者の方にはとても有効な機材であると感じた。

運転中、人は驚くとどうしてもペダルを踏みこんでしまうことから、ペダル踏み間違いの事故は高齢者特有のものではないが、やはり状況判断が衰える高齢者に効果的な装備であるように感じた。

また、障害者福祉の面からもワンペダルの周知と補助制度の創設は検討する価値があると思われる。

一方で、玉名市からの聞き取りでは、ワンペダルの購入者はそれほど多くなく、周知の必要があることを感じた。

この取り組みを政策的に展開するならば、まずは行政がその有効性を認識するための講習会を実施する必要がある。その後、住民学習のテーマに取り上げるなど住民に周知し、さらに購入に際しては約20万円と高額なことから補助制度を設置すれば相応の装備希望者が見込めるのではないだろうか。

本市でもペダルの踏み間違いで事故が発生していると聞く。加害者にも被害者にもならないようにワンペダルもその対策のひとつになると感じた。